令和１年６月８日

日光街道を歩こう会

（OP　越谷宿）

■日　　時：平成 30 年 5 月 31 日（金）

■集合場所：新秋津駅　改札出口前　9:05 集合

■見学場所及び時間：コース全長約 5.5km

所沢駅(8:51)⇒秋津・新秋津(9:10)⇒南越谷・新越谷⇒越谷駅（9:52）⇒八幡神社⇒旧家（田中米穀店、行徳屋、横田診療所）⇒有瀧家のタブノキ⇒浅間神社⇒越ヶ谷宿の旧家（木下半助商店、塗師屋、鍛冶忠他）⇒天嶽寺⇒久伊豆神社⇒建長元年板碑⇒越ヶ谷御殿跡⇒越ヶ谷宿の旧家（会田金物店、大野屋、米長乾物店）⇒本陣跡⇒昼食：かごの屋⇒香取神社⇒北越谷駅……⇒新越谷・南越谷⇒新秋津経由　所沢（15:00 頃帰着予定）

■交通費（所沢から）：約 1,680 円

■昼食　　12：30 頃「かごの屋」　　048-970-1234

コースは実際に歩いた順に直しましたが、ガイドは実際に歩いた順になっていません。

■散策先簡単ガイド

＜越ヶ谷宿＞

越ヶ谷宿は元荒川右岸の越ヶ谷と左岸の大沢の二つの町を合わせた範囲でした。戦国期には元荒川は国境で越ヶ谷側は武蔵国、大沢側は下総国であり、越ヶ谷側は武蔵国の久伊豆（ひさいず）神社があり、大沢側には下総国の一の宮香取神社が鎮座していました。江戸期に入り大沢宿側も武蔵国に編入されました。元荒川の流路が変更されたため、現在、久伊豆神社は元荒川の対岸となっています。

宿場の範囲は現在の越谷市越ヶ谷から元荒川を渡り、大沢に至る範囲です。古くから栄えていた越ヶ谷側は旅籠よりも商家の比率が高いのに対し、大沢側は純粋な宿場の形態を持っており、本陣・脇本陣も大沢に置かれていました。天保 14 年（1843 年）、越ヶ谷宿には本陣 1 軒、脇本陣 4 軒、旅籠 52 軒が設けられていました。宿内の家数は 1,005 軒、人口は 4,603 人で、その規模は千住宿に次ぐ規模となりました。

＜新町八幡神社＞南北朝時代の文和 2 年（1353）銘の板碑を御神体としており、力石や絵馬なども残っています。

＜越ヶ谷一里塚＞

痕跡は何もない。

＜古い家＞

① 田中米穀店、②行徳屋、③白屋旅館

④横田診療所：大正 5 年建築の洋風建物です、かつては越谷郵便局として使われていました。

＜有瀧家のタブノキ＞　越谷市天然記念物

タブノキはクスノキ科の常緑喬木でイヌグスとも呼ばれる。有瀧家のタブノキは幹周り 3.7m 樹齢 400 年以上と推定されています。

＜浅間神社＞

境内のケヤキは幹囲 7m、樹齢約 600 年で市天然記念物。文明 8 年（1476）の奉納の御正躰(みしょうたい)が保存されている。

木や銅の円板に仏像を浮彫し荘厳具をつけ、掛けられるようにしたもの。懸仏(かけぼとけ)ともいう。神仏習合の考えにより、神体である鏡に本地仏の像を彫っている。

＜天嶽寺＞

入口の庚申塚に宝永年間（1673）の庚申塔など多くの庚申塔が建てられている。参道に沿った庚申塚の下には「か八しも二郷半、川かみかすかべ」と刻まれている。

古くは小田原氏の城砦に用いられたといわれ、その後家康より寺領 15 石の朱印状を得ている。家康はしばしば越谷宿を訪れているが、秀忠、家光も狩猟の時に立ち寄っていた。天嶽寺は五か寺の塔頭があり格式の高い寺院であった。

山門は黒門で、境内中ほどに赤門がある。赤門は家康より寺領高 15 石を寄進された時に建立されたと伝えられている。黒門は四代住職が正親町天皇の第三皇子であったので、屋根に菊の紋章の鉄鋲が施されている。

＜久伊豆(ひさいず)神社＞

長い参道を持つ久伊豆神社は越谷の総鎮守とされています。また、宮内庁越谷鴨場と共に市の「**環境保全地域**」に指定されています。

久伊豆神社の創建年代は不詳ですが、平安時代の中期以降武蔵七党の一つである私市(きさい)党（騎西党）の崇敬も篤く、除災招福の神として武士や庶民の信仰を集めてきました。本殿は寛政元年（1789）に建立されたものであり、**第三鳥居**は、伊勢神宮の遷宮に際し、皇大神宮の南板垣御門の古材を用いて建立されたものです。国学者平田篤胤奉納の絵馬や越谷吾山句碑（市指定記念物）があり、境内の**藤**は埼玉県指定の**天然記念物**です。

手水舎には、「**登龍門**」の彫り物がされています。鯉が龍に化身する伝承をモチーフにしています。写真は龍の彫刻。手水舎の**天井にも龍の絵**があります。

縛られ狛犬：足を麻縄で縛られた石造りの狛犬がある。願をかけると、家出人が戻って来たり、悪所通いをしなくなるとの信仰があります。

また、名前が「くいず」とも読めることから、クイズ番組に出場する人が参拝するようになったそうです。

久伊豆神社の神紋は立葵です。近くに徳川将軍家が鷹狩などを行う越ヶ谷御殿があったことから、葵紋の使用が特別に許可されたものといわれています。

＜越ヶ谷御殿跡＞

越ヶ谷御殿は徳川家康によって慶長 9 年(1604)に設けられた御殿です。御殿の建物に関する詳細は不明ですが、家康が増林にあった御茶屋御殿を移したものといわれています。家康・秀忠などがしばし訪れて泊まり、鷹狩をしていた記録が残されています。

その後、越ヶ谷御殿は明暦の大火（1657 年）によって江戸城が消失したため、将軍の仮殿として江戸城二の丸に移されました。

＜建長元年板碑＞

鎌倉時代の中頃、建長元年（1249）の銘が刻まれています。市内最古で最大の板碑で、高さ 155 センチ、幅 56 センチです。緑泥片岩を使用し、山形の頂部に二段の切り込み（二条線）があり、中心には阿弥陀尊をあらわす大きな梵字（キリーク）が刻まれています。

＜越ヶ谷宿の趣のある旧家＞

・**木下半助商店**（国登録有形文化財）　明治時代後期から大正時代にかけて建築された道具店です。表通りに面する店舗のほか、土蔵、石蔵、主屋、稲荷社が現存し、明治期の越谷における商店の面影をよく伝えています。

・**塗師**（ぬし）**屋**（小泉右衛門宅）：江戸時代の太物屋（綿織物や麻織物を扱う呉服屋）で、先祖は漆も扱っていました。現在の当主も、江戸時代と同じ名前の小泉右衛門さんだそうです。

・**鍛冶忠：**明治 33 年（1900）に建てられた蔵造りの商店、前の職業は鍛冶屋だったそうです。明治になり、今の荒物屋に変わり、藁工品（筵、こも、荒縄）などを取り扱い現在に至っています。

・**会田本陣跡**：当初、越ヶ谷町の本陣、問屋役持回りなど宿場の要職は会田一族に集中していたが安永２年（1773 年）越ヶ谷町と大沢町で伝馬業務両町合体を決め、本陣は越ヶ谷町から、大沢町の福井家へ移った。**商工会議所あたり**が会田本陣のあった場所。

・**四ツ目屋**：現在はお菓子屋さんだが、屋号は昔のアダルトショップ。

・**河内屋**：創業 300 年といい、旅籠屋だった江戸時代から続く老舗旅館。

・**会田金物店**：近所に金物屋がなく、大沢町の人たちも頻繁に訪れた、自家製蜂蜜を販売していたそうです。

会田金物店

・**大野家**（はかりや）：徳川慶喜が明治 33 年６月５日と８日の２日間、大野家に宿泊しています。

・**遠藤家の蔵**：街道沿いに大きな土蔵２棟が現存しています。初代は白生地木綿問屋。

遠藤家の蔵

・**米長**（こめちょう）**乾物店**：鰹節・昆布・各種豆類その他乾物類を販売しています。

＜本陣跡＞

元荒川を渡ると大沢町になり宿場の施設がある。橋を渡ってすぐ左が越ヶ谷宿最古の建物で、創業 400 年の「饂飩屋」という老舗うなぎ店の建物でしたが、2010 年全焼してしまいました。

この先、右手「きどころパン店」の所が**福井本陣**の跡、右手深野造園が**玉屋脇本陣跡**、左手の生そば三枡屋が**虎屋脇本陣跡**です。

＜香取神社＞

大沢町鎮守。本殿は明治元年（1868）再建。奥殿は、慶応２年（1866）の建造で、四面の外壁に彫刻が施されている。彫刻は浅草長谷川竹次郎の作で、市指定文化財。高砂の翁、大黒天、龍などの浮き彫り、奉納者の名が刻まれ、北側の一部には貴重な**紺屋の労働作業**の有様が精巧に刻まれている。

＜宮内庁埼玉鴨場＞

訓練したアヒルを使い、猟者が潜む直線的な細い水路に鴨を誘導し、飛び立つ瞬間を網で捕獲する。水路で飛翔方向が限定されるため、網を振るだけで子供でも容易に捕獲が可能です。

皇室関連の行事のほか日本に駐在する外交官や賓客接遇の場としても用いられている。捕らえられたカモは標識（足環）をつけ放鳥される。一般公開は年に 2 回程行われてます。

＜帰路＞

北越谷－新越谷・南越谷（武蔵野線）－新秋津

所沢着　約 1 時間 5 分